



元気っ子

No.270 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

新しい年が明けて、はや一ヶ月が経ちます。本当に月日の流れるのは早いものだと、いつもこの「元気っ子通信」を書くたびに思います。

今年の冬は例年のないほどに暖冬で、ここまで雪の降らない冬も珍しいのではないのでしょうか。世界気象機関(WMO)は2019年の世界の平均気温が観測史上、2番目に高かったと発表しており、また、温室効果ガスの量も過去最悪の多さになっており、今のままでは世界の平均気温が今世紀末までに3度から5度上昇するとしています。これは最早、避けることのできない現実なのだと思いますが、一人一人が自覚をもって、未来を担う「愛する我が子」のためにも温暖化を少しでも遅らせる努力をしていき、その姿を子どもたちに見せられたらと思います。

さて1月は平澤さん、黒宮さんと一緒に「新宿せいが子ども園」と「千代田せいが保育園」の施設見学に行ってきました。この2園はともに、今月、ながさわ保育園の職員園内研修で講演をして頂く藤森平司園長先生の提唱する「見守る保育」を実践されている保育園なのですが、この保育概念は今や、世界でも注目されており、我々が施設見学に行った日も藤森園長先生は中国から講演依頼を受けられ出張中でしたし、我々の滞在中にも小池都知事から視察依頼の連絡が入っていました。

これほどまでに注目されているのはやはり時代の変化によって、社会のニーズが変化しているからに他ならないと思います。かつて世の中は家庭内にも地域にも子ども集団が存在しており、多種多様な人間関係の中で子どもたちは育ってきました。そもそも子どもが沢山いる「多子社会」でした。それが今のような少子社会になると、子ども同士の関係が変化していき、自然発生的には子ども集団が生まれなくなります。そうすると子ども集団を基盤とする様々な子どもの力は育ちにくくなってしまい、また大人と子どもの関係も変わってきてしまいます。多子社会では良い意味で一人一人に手が掛けられなかったのが、少子社会になり一人一人に手が掛けられるようになることで子どもにとって必要のないところまで手を出してしまい、過干渉になってきてしまいます。そうすると子どもから自発性を奪ってしまい、また創造力や思考力、判断力の欠落を招いてしまい、子どもの「自分からやる意欲」(主体性)が育たなくなってしまいます。大人の過干渉はやがて依存症の若者を作り出し、自立していかない若者をつくる一因になっていると言えます。これが今「見守る保育」が注目されている理由だと思います。

施設見学を通して、一番印象に残っているのは、どちらの園も共通して大人の存在感が非常に薄く、子どもたちが主体性をもって活動している姿でした。それはまさに時代が求めている若者の姿なのだと感じました。

今週はひよこ組りす組の保育参加があります。是非子どもたちの保育園での成長をご覧いただけたらと思います。

